

授業科目	*看護技術論演習					実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	長崎 恵美子、幸 史子、梶原 江美、隅田 由加里、中島 紀江、西田 彩子						
授業概要	<p>本科目は、生活者である人間の人権を尊重して安全を保障し、安楽（快適さ）や自立に向けた援助を行う上での共通の看護技術について根拠を踏まえて学修する。また、同時に対象に対する倫理的配慮の考え方やかかわりについても学習していく。具体的には、看護実践の基本となる「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位変換」、「環境調整技術」、「コミュニケーション技術」、「記録・報告」について、講義や看護実習室での演習を通して、基本的な知識・技術を修得する。また、演習でのグループ行動を通して、報告や臨む態度や姿勢、相手を思いやる気持ちを育むことを目指す。</p> <p>実務家教員として、病院での複数診療科における長年の臨床経験と大学での看護学教育の経験を活かして、看護における「看護技術」の意義や特徴、適切な看護を実践するうえで必要な要素について概説し、具体的な方法について実際に提示し、技術の獲得につなげる。</p> <p>この科目は1回あたり2コマで実施する。</p>						
授業形態	対面授業			授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習については、グループでの行動とし、意見交換の時間を確保する。 ・classroomを活用した連絡や課題の提供、実技練習に必要な看護技術動画の視聴 		

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	<ol style="list-style-type: none">看護における看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点をもつ必要性について説明できる。看護における感染予防の意義を理解して、感染予防に向けた行動ができる。ボディメカニクスを意識した行動ができる。また、その修正行動ができる。生活の中での環境アセスメントに関心を持ち、調整し、療養環境調整に生かすことができる。看護におけるコミュニケーションの意義と方法について理解し、日常生活で活かすことができる。報告・記録の目的や原理原則を理解した上で、授業に生かすことができる。課題や演習を通して、決められたルールを守り、連絡・報告ができる。また、その修正行動がとれる。対象に配慮できる。自己学習や技術練習を行い、理解を深めることができる。
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none">看護技術を提供する意味や安全・安楽・自立の視点をもつ必要性について説明できる。感染予防の基本であるスタンダードプリコーションの概念について説明でき、感染予防行動がとれる。人を動かす、支えるために必要なボディメカニクスと安楽な体位について理解し、意識した行動がとれる。療養環境を整えるために必要な基礎知識を説明できる。また、実習室を使用して療養環境を整えることができる。看護におけるコミュニケーションの意義と方法について説明できる。また、その方法を活用して日常生活で実践できる。チーム医療に必要な記録、報告の重要性について説明することができる。また、授業や演習に

活かすことができる。

7. 課題や演習を通して、チーム医療の基本となるルールの順守および連絡・報告が確実に実施できる。

8. 援助に伴う倫理的課題について考え、対象者に応じた関わりを説明できる。

9. 積極的に自己学習を行い、友人と意見交換や技術練習を重ね、看護について理解を深めることができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	50%	
小テスト	10%	講義終了時に行う
レポート	20%	事前・事後課題やファイル提出すべてを含む
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%	実技試験で評価する
レポート外の提出物	0	
その他	0	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	ナンバリング	NU11203J
学習課題（予習・復習）								1回の目安時間（時間）	
予習：教科書（基礎看護技術Ⅰ）の該当部分の通読、動画やテキストの活用、演習資料の熟読、事前課題								1	
復習：講義内容の整理、まとめノートの活用、看護用語の学習、演習の課題レポート、自己練習									

授業計画

第1回	<p>【本科目のガイダンス】</p> <p>【看護技術の意義】</p> <p>看護技術の意義と特徴、範囲</p> <p>看護技術を提供するための共通言語としての看護用語</p> <p>【実習室オリエンテーション】</p> <p>[講義：長崎恵美子]</p>
第2回	<p>【感染予防技術①】</p> <p>感染予防の重要性</p> <p>標準予防策（スタンダードプリコーション）</p> <p>感染経路別予防策</p> <p>感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>[講義：長崎恵美子]</p>
第3回	<p>【安全・安楽を守る技術①】</p> <p>ボディメカニクス</p> <p>体位変換（ポジショニング）</p> <p>転倒・転落防止</p> <p>[講義：長崎恵美子]</p>

第 4 回	<p>【快適な環境を作る技術①】</p> <p>看護における環境</p> <p>療養生活と環境</p> <p>病室環境のアセスメントと調整環境の基礎知識</p> <p>[講義 : 長崎恵美子]</p>
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 回と第 6 回は連続して行う <p>【感染予防技術②】</p> <p>衛生学的手洗い・個人防護用具（マスク・エプロン・手袋）の着脱</p> <p>【安全・安楽を守る技術②】</p> <p>ボディメカニクスの原理（水平移動）</p> <p>体位変換（仰臥位→側臥位）</p> <p>[演習 : 長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 5 回と第 6 回は連続して行う <p>【感染予防技術②】</p> <p>衛生学的手洗い・個人防護用具（マスク・エプロン・手袋）の着脱</p> <p>【安全・安楽を守る技術②】</p> <p>ボディメカニクスの原理（水平移動）</p> <p>体位変換（仰臥位→側臥位）</p> <p>演習のまとめ</p> <p>[演習 : 長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 7 回と第 8 回は連続して行う <p>A クラス : 演習</p> <p>【快適な環境を作る技術②】</p> <p>ベッドメーキング</p> <p>[演習 : 長崎恵美子、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B クラス : 講義 <p>【コミュニケーション技術①】</p> <p>コミュニケーションの種類と構成要素、関係構築のためのコミュニケーションの基本</p> <p>[講義 : 梶原江美]</p>
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 7 回と第 8 回は連続して行う <p>A クラス : 演習</p> <p>【快適な環境を作る技術②】</p> <p>ベッドメーキング</p> <p>演習のまとめ</p> <p>[演習 : 長崎恵美子、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B クラス : 講義 <p>【コミュニケーション技術②】</p> <p>プロセスレコードとコミュニケーション障害への対応の基本</p>

	<p>【記録・報告】 チームで看護を実践・継続させていくためのコミュニケーション技術（記録・報告） [講義：梶原江美]</p>
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 7 回と第 8 回は連続して行う <p>B クラス：演習 【快適な環境を作る技術②】 ベッドメーキング [演習：長崎恵美子、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p> <p>A クラス：講義 【コミュニケーション技術①】 コミュニケーションの種類と構成要素、関係構築のためのコミュニケーションの基本 [講義：梶原江美]</p>
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 7 回と第 8 回は連続して行う <p>B クラス：演習 【快適な環境を作る技術②】 ベッドメーキング 演習のまとめ [演習：長崎恵美子、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p> <p>A クラス：講義 【コミュニケーション技術②】 プロセスレコードとコミュニケーション障害への対応の基本 【記録・報告】 チームで看護を実践・継続させていくためのコミュニケーション技術（記録・報告） [講義：梶原江美]</p>
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 11 回と第 12 回は連続して行う。A、B クラスごとに別日程で演習する <p>【快適な環境を作る技術③】 臥床患者のシーツ交換/環境調整 [演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 11 回と第 12 回は連続して行う。A、B クラスごとに別日程で演習する <p>【快適な環境を作る技術③】 臥床患者のシーツ交換/環境調整 環境整備のグループ発表 演習のまとめ [演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第 13 回と第 14 回は連続して行う <p>【看護技術論演習実技試験：ベッドメーキング】 既習の知識・技術を活用し、患者を迎えるベッドを作成する [演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p>

	<p>【課題学習】</p> <p>看護師国家試験の出題や疑似問題を通して、既習の知識の要点を整理する。</p>
第14回	<p>【看護技術論演習実技試験：ベッドメーキング】</p> <p>既習の知識・技術を活用し、患者を迎えるベッドを作成する。</p> <p>[演習：長崎恵美子、梶原江美、幸史子、隅田由加里、中島紀江、西田彩子]</p> <p>【課題学習】</p> <p>看護師国家試験の出題や疑似問題を通して、既習の知識の要点を整理する。</p>
第15回	<p>【まとめ：知識・技術の整理】</p> <p>看護技術論演習で学んだ内容について整理する。</p> <p>[講義：長崎恵美子]</p>
テキスト	<p>深井喜代子 編：新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第6版 メディカルフレンド社 2021 3,520円</p> <p>深井喜代子 編：新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第5版 メディカルフレンド社 2021 3,520円</p> <p>宮脇美保子、深井喜代子 総監修：新体系看護学全書準拠 基礎看護学まとめノート 別冊解答付き（第1巻 看護学概論/臨床看護総論、第2巻 基礎看護技術Ⅰ、第3巻 基礎看護技術Ⅱ） 第1版 メディカルフレンド社 2022 4,000円+税</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>山口瑞穂子 監修：新訂版 看護技術講義・演習ノート上巻 第2版 サイオ出版 2016</p> <p>山口瑞穂子 監修：新訂版 看護技術講義・演習ノート下巻 第2版 サイオ出版 2016</p> <p>竹尾恵子 監修：看護技術プラクティス【第4版 動画付き】 学研メディカル秀潤社 2019</p> <p>医療情報科学研究所 編：看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 2018</p> <p>医療情報科学研究所 編：看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 2018</p> <p>佐藤和良 著：看護学生のための物理学 医学書院 2014</p> <p>その他、学生が学修するにあたって有益な教材があれば、必要時紹介します。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>小テストは採点後、次回の講義で解説または提示する。</p> <p>課題レポートや講義に関する質問は、コメントをつけて返却、または、次回の講義内で伝える。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>本科目は、講義と看護技術の実技演習を併せた授業です。看護の礎を築くための初めての授業となります。知識の定着や看護技術の修得には予習・復習は必要不可欠です。テキストや動画視聴、図書館の活用などを用いて予習・復習をして臨むことを定着させましょう。また、演習はグループでの行動となります。基本的な態度として、科目の連絡は毎日確認する、必要な事柄は速やかに担当教員に連絡する、classroom を活用する、感染予防対策・健康管理の他に身だしなみを規定通りに整えて演習に臨みましょう。</p> <p>看護を行うには、心（態度）と頭（知識）と手（技術）すべてが必要です。対象一人ひとりの個別性を活かした看護の提供には、手順ではなく根拠を基に考えることが重要です。また、患者役の体験を通して倫理的配慮を工夫し、友人と意見交換を重ねて、よりよい技術の習得を目指しましょう。</p>

